

2023年3月期第2四半期 (FY2022 2Q) 決算概要

2022年11月8日

千代田化工建設株式会社

エンジニアリング 社会の“かなえたい”を共創する

Our SDGs Materiality



 **CHIYODA**
CORPORATION

SPERA Hydrogen
Shaping the Future of Energy

I 決算概要

II 成長戦略トピックス

III 主要遂行中案件

I 決算概要

1 ハイライト

1.

業績

前年同期比、増収増益。下期は大口案件の進捗を加速化し、通期予想の達成を見込む。

2.

世界的なインフレへの対応

既存・新規案件への影響を注視、顧客、パートナーと協力して影響を最小化すべく取組み中。

3.

成長戦略

シンガポール向け国際水素サプライチェーン構築で、グローバルなビジネス展開に進捗。

2 損益計算書

(単位:億円)

	FY2021 2Q	FY2022 2Q	増減	FY2022 通期予想	進捗率
完成工事高	1,474	1,843	369	5,000	37%
完成工事総利益	119	121	2	350	34%
完成工事総利益率	8.1%	6.6%	△1.5pt	7.0%	-
販売費・一般管理費	△56	△59	△3	△150	-
営業利益	63	61	△2	200	31%
経常利益	60	66	6	180	37%
純利益*	△153 ^(注1)	53	207	115	46%
為替レート(円/米ドル)	112	145		138 ^(注2)	

(注1) FY2021 1QはイクシスLNGプロジェクト(完工済み)で特別損失△204億円を計上、仲裁は解決済み。

(注2) 期初の前提レート120円から見直し。

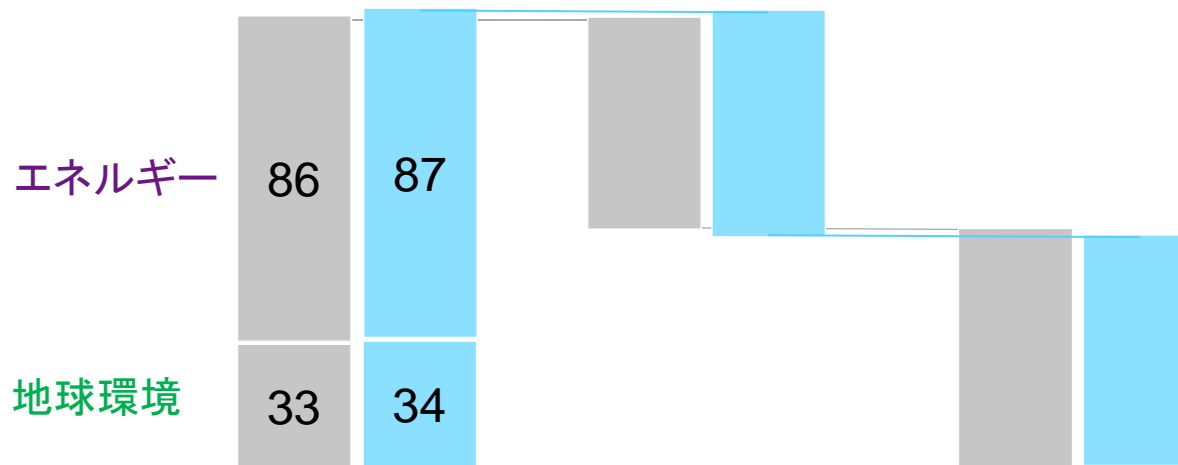
* 親会社株主に帰属する当期純利益

3 利益増減分析

(単位:億円)



	完工総利益	販管費	営業利益
	119 121(+2)	△56 △59(△3)	63 61(△2)



()内: FY2021 2Q比増減

4 バランスシート

(単位:億円)

	FY2021 4Q	FY2022 2Q	増減		FY2021 4Q	FY2022 2Q	増減
流動資産	3,727	3,879	152	流動負債	3,507	3,661	154
現金・預金等	688	674	△14	支払手形・工事未払金	961	1,126	165
営業資産*1	590	610	20	契約負債 (未成工事受入金)	1,434	1,769	334
未収入金	832	330	△503	工事損失引当金	348	351	3
JV持分資産*2	1,414	1,816	402	未払金	440	165	△275
その他	217	465	248	固定負債	290	275	△15
固定資産	227	240	12	純資産	158	182	25
総資産	3,954	4,118	164	負債・純資産	3,954	4,118	164
				自己資本	157	181	24
				自己資本比率	4.0%	4.4%	+0.4pt

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金

*2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金

5 受注高・受注残高

(単位:億円)

	FY2022 2Q 受注高	FY2022 2Q 受注残高
エネルギー分野	305	9,762
地球環境分野	156	3,836
合計	461	13,598

受注残高主要案件	1,000億円以上	100億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG 米国・ゴールデンパスLNG	インドネシア・タングーLNG
地球環境分野	インドネシア銅製錬	バイオ医薬品原薬製造工場 北豊富変電所蓄電池システム

完成工事高・受注残高内訳

(単位:億円)

FY2022 2Q 完成工事高

【分野】

エネルギー	1,294	70%
■ LNG・その他ガス関係	1,125	61%
■ 石油・石油化学	169	9%
地球環境	549	30%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	142	8%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	407	22%
合計	1,843	100%

【地域】

海外	1,480	80%
■ 中近東・アフリカ	636	35%
■ 北中南米	331	18%
■ アジア・オセアニア	514	28%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	363	20%
合計	1,843	100%

FY2022 2Q 受注残高

【分野】

エネルギー	9,762	72%
■ LNG・その他ガス関係	9,520	70%
■ 石油・石油化学	242	2%
地球環境	3,836	28%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	424	3%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	3,411	25%
合計	13,598	100%

【地域】

海外	12,680	93%
■ 中近東・アフリカ	8,167	60%
■ 北中南米	1,161	9%
■ アジア・オセアニア	3,351	25%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	918	7%
合計	13,598	100%

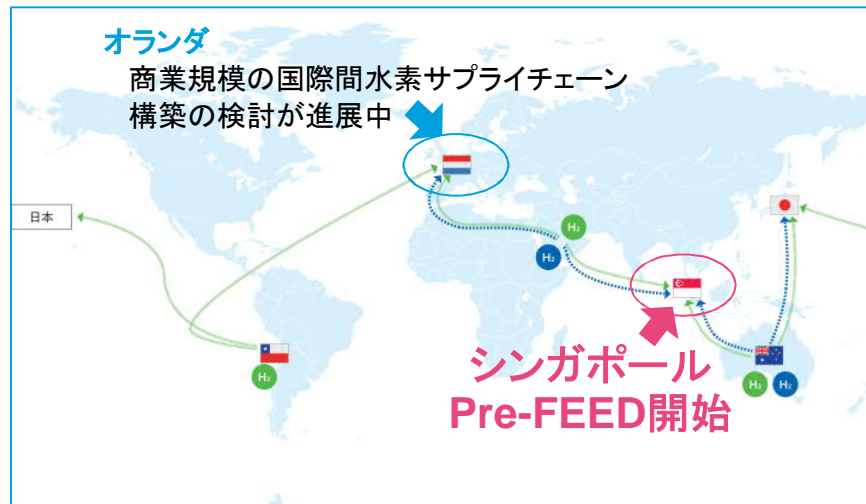
Ⅱ 成長戦略トピックス

1 水素事業～SPERA水素™～

シンガポールでの水素サプライチェーン事業開発

- シンガポールにおいて、同国有数の総合ユーティリティ企業で政府系コングロマリットであるSembcorp Industries社、三菱商事(株)と、クリーン水素サプライチェーンのPre-FEED*1(概念設計)を開始。商業運転開始は2026年を予定。
- 生産量は年間約6万トン*2でアジア最大のクリーン水素供給事業を目指す。

グローバル水素サプライチェーンをつなぐSPERA水素



→ グリーン水素

→ ブルー水素



Pre-FEEDのMOU締結時の関係者集合写真(本年10月)
石川駐シンガポール大使(左から3人目)、Singapore Manpower Minister
Tan See Leng (左から4人目)を囲んで

*1 Pre-Front End Engineering Designの略

*2 約100万メガワット時の再生可能エネルギーに相当、シンガポールにおける既存の再生可能エネルギー生産量の2倍

1 水素事業～SPERA水素™～

西村経済産業大臣、脱水素プラントを視察

- 西村康稔経済産業大臣は10月に東亜石油京浜製油所内の脱水素プラントを視察。
- 当社が参加する次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合(AHEAD)が完遂した国際間水素サプライチェーン実証事業、MCH*を利用した水素貯蔵・輸送技術をご紹介します。



西村大臣視察の様子(前列左から3人目)

国際間水素サプライチェーン実証事業



概 要	
設備規模	210トン/年(最大) (FCVフル充填 約4万台分)
運用期間	2020年
水素供給源	ブルネイ・ダルサラーム国
水素需要	ガスタービン発電設備用燃料 (川崎臨海部)
輸送	ISOタンクコンテナ (コンテナ船/トレーラー輸送)
事業スキーム	千代田化工・三菱商事・三井物産・ 日本郵船で技術研究組合AHEADを 組成、NEDO助成事業として実施

*MCH: methylcyclohexane(メチルシクロヘキサン)の略

2 低炭素・カーボンリサイクルの取り組み

インドネシア国営エネルギー会社プルタミナ社と 同国最大規模のCCS*事業共同検討

- プルタミナ社との脱炭素分野の協力に関する覚書に基づく事業展開。
- インドネシア化学品製造プラントから副生されるCO₂の大規模回収・輸送及び貯留設備の建設・運転の実現可能性調査を実施する。
- 日本とインドネシア間の関係強化に資する二国間協力と評価され、経済産業省の補助金事業に採択済み。



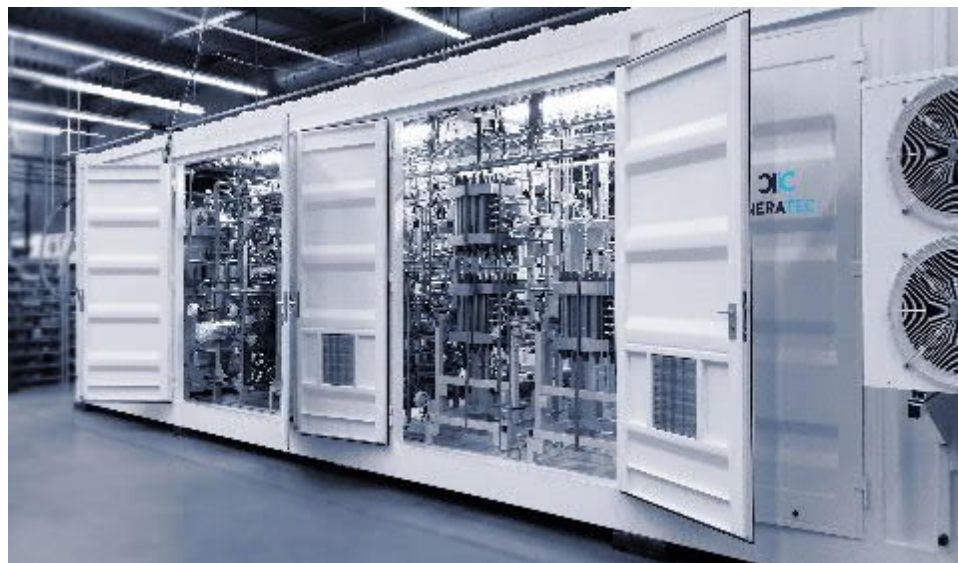
本年9月「第2回アジアグリーン成長パートナーシップ閣僚会合」でのCCS事業共同検討のMOU署名風景

* Carbon dioxide Capture and Storageの略。二酸化炭素回収・貯留

2 低炭素・カーボンリサイクルの取り組み

e-fuel^{*1}分野への参入

- ドイツのクリーンテクノロジー企業INERATEC社とのe-fuel製造による脱炭素化促進に向けた戦略的協業がスタート。
- 同社のコンパクトで革新的なPtX^{*2}テクノロジーと当社のエンジニアリング知見を組み合わせ、日本・アジア太平洋地域のSAF^{*3}を含む e-fuel製造案件を実現させる。



INERATEC社による工業規模の
コンテナ型プラントモジュール

^{*1} 再生可能エネルギーを利用し水電解で得られた水素とCO₂から製造された合成燃料

^{*2} Power to Xの略。電気を気体・液体燃料や化学物質に変換して貯蔵・利用する技術

^{*3} Sustainable Aviation Fuelの略。持続可能な航空燃料

3 エネルギーマネジメント事業

前田JBIC*会長、蓄電池システムを視察

- 前田匡史JBIC会長が本年8月に北海道北部風力送電(株)向け世界最大級の蓄電池システムの建設現場を視察。
- 本蓄電池システムは、当社が建設、実証業務を遂行中。完成後は20年間の保守業務も担う。再生可能エネルギーと蓄電を組み合わせた複合型案件を通して、地域ユーティリティ事業に展開を目指すとともに、地域創生にも貢献していく。



前列左から4人目が前田会長



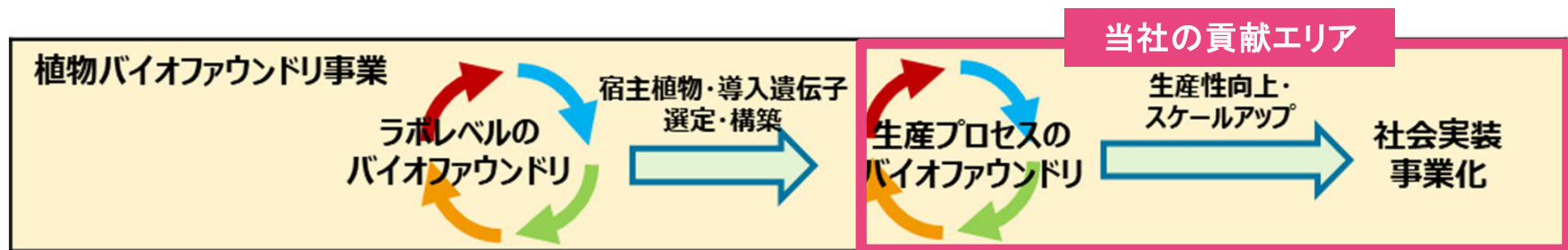
CG内の航空写真は国土地理院地図をもとに当社作成

* 国際協力銀行

4 ライフサイエンス事業

エネルギー分野の知見をバイオファウンドリ*1分野に展開

- 植物を利用して人体適合性が高い機能性タンパク質を大量生産する技術とシステムを産学連携で開発する。医薬部外品領域での適用を想定。
- 当社はエネルギー分野で培った知見を活用し、大量生産技術の開発で貢献、バイオファウンドリ分野での水平展開を目指す。



本実証はNEDO*2助成事業*3に採択

期間 2022年度～2024年度

目標 サンプル製造・量産プロセス確立

遺伝子組み換え
関連技術開発

産業技術総合研究所
大阪大学

大量生産技術
の開発

当社



評価システム
開発

(株)ニッピ

*1 バイオファウンドリ: 多様なバイオ由来製品の試作・検討が可能なバイオ生産システム基盤

*2 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

*3 「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」

5 デジタルトランスフォーメーション(DX)

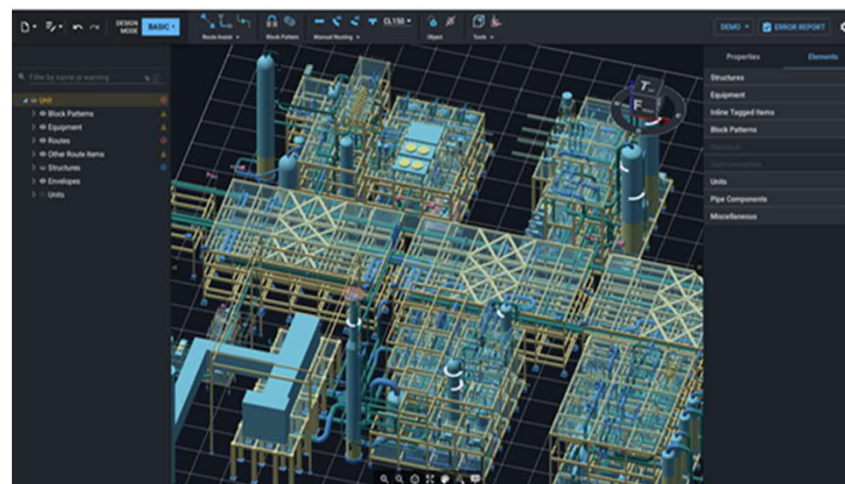
革新的な空間自動設計システムPlantStream®の導入拡大

- プラントの基本設計で配管・ケーブルの設計をCADを用いて自動化。空間設計工数を80%程度削減、従来の約5倍の速度で三次元モデルを作成。
- 販売開始1年強で国内外企業10数社にライセンス供与、約20社で採用を検討中。
- 当社は設計業務で実装済み、EPC競争力の強化に寄与。



本年9月にデジタル庁主催
「good digital award」スタートアップ部門
の最優秀賞受賞

[「good digital award」特設ページ](#)

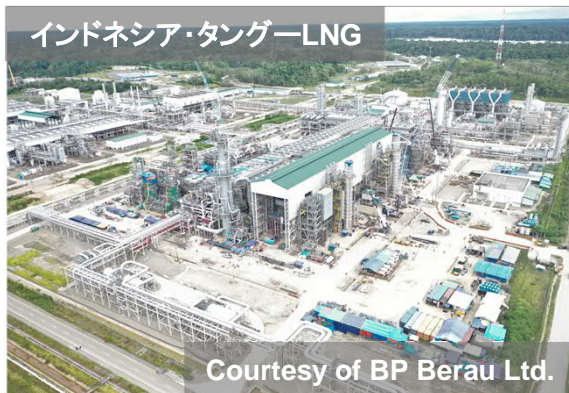


PlantStream®の設計イメージ画像

Ⅲ 主要遂行中案件

1 主要遂行中案件(エネルギー分野)

案件	インドネシア・タンゲーLNG	米国・ゴールデンパスLNG	カタール・NFE LNG
顧客	BP Berau Ltd.	Golden Pass Products, LLC (QatarEnergyとExxonMobilのJV)	QatarEnergy
パートナー	Saipem, Tripatra	Zachry, McDermott	Technip Energies
納期	Start up 2023年	2024年～2025年(3系列)	2025年～2027年(4系列)
遂行状況	建設工事終盤、完工に向けて遂行中。	建設工事が本格化し進捗中。	設計・調達を遂行、本設プラントの土木工事が本格化。



2

主要遂行中案件(地球環境分野)

案件	インドネシア銅製錬	ワクチン原薬製造設備	北豊富変電所蓄電池システム
事業分野	非鉄金属	ライフサイエンス	エネルギーマネジメント
顧客	P.T. Freeport Indonesia	塩野義製薬(株)	北海道北部風力送電(株)
納期	2024年	2023年	2023年
遂行状況	設計・調達遂行並びに建設工事本格化し進捗中。	試運転実施中。	試運転実施中。



インドネシア銅製錬



ワクチン原薬製造設備

ワクチン原薬製造設備イメージ図



北豊富変電所蓄電池システム

蓄電池システム内観

E nergy and E nvironment in H armony



千代田化工建設株式会社 総務部IR・広報・サステナビリティ推進セクション <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。